



ハートフルなんぶ

2021. 7月号 vol. 273



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

夏期学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

学習室利用時間 午前10時～午後5時30分まで(時間厳守)

7月学習室開放日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				休館日	休館日	休館日
4	5	6	7	8	9	10
休館日	休館日	休館日				開放
11	12	13	14	15	16	17
開放		休館日				開放
18	19	20	21	22	23	24
開放		休館日		開放	開放	開放
25	26	27	28	29	30	31
開放		休館日			休館日	×

8月学習室開放日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
×		休館日				開放
8	9	10	11	12	13	14
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
15	16	17	18	19	20	21
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
22	23	24	25	26	27	28
開放		休館日		開放	開放	開放
29	30	31				
開放	休館日	休館日				

※蓋つきの飲み物以外の飲食を禁じます。(昼食スペースはありません)

※マスクの着用、手洗い、消毒等、感染予防にご協力ください。

※学習室をご利用いただける日は変更となる場合があります。

ホームページ、館内表示にてご確認ください。



- 『正欲』朝井 リョウ／著 新潮社 <F ア>
- 『道連れ彦輔居直り道中』逢坂 剛／著 毎日新聞出版 <F オ>
- 『チンギス紀 10』北方 謙三／著 集英社 <F キ 10>
- 『初詣で』佐伯 泰英／著 文藝春秋 <F サ>
- 『呉・広島ダブル殺人事件』西村 京太郎／著 双葉社 <F ニ>
- 『新謎解きはディナーのあとで』東川 篤哉／著 小学館 <F ヒ>
- 『白鳥とコウモリ』東野 圭吾／著 幻冬舎 <F ヒ>
- 『小福ときどき災難』群 ようこ／著 集英社 <914.6 ム>
- 『アウトサイダー 上・下』スティーヴン・キング／著 文藝春秋 <933 キ>
- 『松山三四六の信州ディープツアー』松山 三四六／著 太田出版 <N299 マ>
- 『難しい本をどう読むか』齋藤 孝／著 草思社 <019 サ>
- 『老後の年表』横手 彰太／著 かんき出版 <367 ヨ>
- 『養老先生、病院へ行く』養老 孟司／著 エクスナレッジ <498 ヨ>
- 『るるぶ宇宙』林 公代／監修 JTB パブリッシング <538 ル>
- 『50歳からの私らしい暮らし方』柿崎 こうこ／著 エクスナレッジ <590 カ>
- 『ホクトの1番おいしいきのこレシピ』ホクト(株)／監修 池田書店 <596 ホ>
- 『いちばんていねいな野菜づくり図鑑』加藤 義貴／監修 ナツメ社 <626 イ>
- 『これでおしまい』篠田 桃紅／著 講談社 <728 シ>

新刊案内



『それ、時代ものにはNGです [1]』若桜木 虔／著 叢文社 <<210.5 フ>>
 『絵でみる江戸の人物事典』善養寺 ススム／文・絵 廣済堂出版 <<281 セ>>
 『大奥の座敷童子』堀川 アサコ／著 講談社 <<F ホ>>
 『芳一』堀川 アサコ／著 講談社 <<F ホ>>
 『吉原十二月』松井 今朝子／著 幻冬舎 <<F マ>>
 『とっぴんぱらりの風太郎』万城目 学／著 文藝春秋 <<F マ>>
 『龍馬のピストル』松田 十刻／著 PHP 研究所 <<F マ>>
 『かおばな憑依帖』三國 青葉／著 新潮社 <<F ミ>>
 『花宵道中』宮木 あや子／著 新潮社 <<F ミ>>
 『天空の陣風(はやて)』宮本 昌孝／著 祥伝社 <<F ミ>>
 『幽玄の絵師』三好 昌子／著 新潮社 <<F ミ>>
 『尼子姫十勇士』諸田 玲子／著 毎日新聞出版 <<F モ>>
 『帰蝶』諸田 玲子／著 PHP 研究所 <<F モ>>
 『刀と算盤』谷津 矢車／著 光文社 <<F ヤ>>

7月のテーマ
「時代小説」



『火付盗賊改方、長谷川平蔵である！』

テレビドラマ「鬼平犯科帳」のエンディングは、江戸の市井の春夏秋冬を美しい映像でつづっていく。桜の水辺に行く舟、風鈴売り、花火を見上げる人々、雪の中ですする蕎麦など。これらの情景にギターの情熱的な旋律が流れるのだが、これが何故かしっくり合う。

鬼平の活躍を見届けた後このエンディングまで堪能すると、心がしみじみと落ち着いている。

主役の火付盗賊改方長官・長谷川平蔵（人呼んで鬼平）は何人かの役者が演じているが、私は二代目中村吉右衛門が一番はまっていると思う。この人の、流し目気味に「にやり」とする笑顔が特に魅力的。

鬼平の逆境の生い立ちや、放蕩時代、組織人としての悩み、人を裁く苦しみ、それら一切を内に秘めて笑ってみせる秀逸な演技だ。原作は読んだことがなかった。中村吉右衛門があまりにも鬼平なので、自分の中のイメージを守りたかったのかもしれない。

ところが最近になり権堂の古本屋で原作文庫本全巻が紐でくくられ置かれているのを見つけて、一冊100円ならと、思い切って買ってしまった。

数冊読むうちに、登場人物の名前が混乱してきた。女性は下の名前だけなので、おまさ、お熊、おりき、とだんだん混ざってしまう。また盗賊にはあだ名があり、狐火の〇〇、夜狐の〇〇、伊賀の〇〇、伊砂の〇〇、とやはりごっちゃになってしまいなんとも情けない。

それでも読む間、鬼平の部下となり密偵となり、あるいは宿敵となって、心は江戸の町を駆け巡る。いつか江戸古地図なんぞを片手に、小説ゆかりの地を訪ね歩いてみたいものだ。

寄稿：とど

は休館日です。

開館時間10:00~18:00

南部図書館
開館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
2021年				1	2	3
7月	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16
	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	29	30
2021年	1	2	3	4	5	6
8月	8	9	10	11	12	13
	15	16	17	18	19	20
	22	23	24	25	26	27
	29	30	31			